

平成30年度アドバイザー派遣事業実施レポート

- 1 研究団体名 国語を楽しむ会
- 2 研修テーマ これからの時代に求められる言語能力の育成
～確かな「言葉の力」を育てる国語科の実践～

本研究会は、平成23年度より拠点となる学校を変えながら継続的に国語の授業及び理論研究を行ってきた。「物語文」「説明文」「詩」等、その年ごとにテーマを掲げ研究を深めてきた。児童一人一人に確かな「言葉の力」を育むことができるよう、会員のニーズに応じたテーマのもと、一層の指導力向上を目指したいと考え研修を行った。

- 3 アドバイザー 桃山学院教育大学 教授 二瓶 弘行先生

桃山学院教育大学教授の二瓶弘行先生は、筑波大学附属小学校教諭時代から、児童に「自力読みの力」を獲得と「仲間との語り合い」を通して、確かな「言葉の力」を育ててこられた。豊富な実践に裏付けられた誰にもわかりやすく明確な理論は、教職経験を問わず、我々の明日からの実践に大きな示唆を与えてくれるものであった。

4 研修の概要

日 時	平成31年2月22日（金）	13:45～16:55
場 所	米子市立福米西小学校（米子市西福原8丁目16番62号）	
日 程	13:45～14:30	公開授業 本校 6年1組 「おおきなかぶ」「百万回生きたねこ」
	14:45～16:55	講義・演習

5 研修の成果

二瓶先生による師範授業では、国語科授業だけでなく、学校教育全ての土台となる「学習に向かう姿勢」「なかまに寄り添い、ともに高め合うこころと態度」についても示していただいた。授業を通してどんどん変容していく子ども達の姿から、国語科の指導についてだけではなく、決してあきらめてはいけない教師の姿勢も学ばせていただいた時間となった。

理論研究では、6年間を通した物語文を学ぶことを通してつきたい力と、単元構成、指導のあり方等について講義を受けるとともに、具体的な教材を用いながら演習を行った。特に我々教師が子どもの立場となつての演習では、教材研究がいかに重要かということや、「主体的・対話的で深い学び」がもたらす自身の変容や考えの深まりを、身をもって体験することができた。

参加者64名が、その教師経験の長短に関係なく、驚きと感動を感じた、充実した時間となった。

